



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二六二号〜

立冬

十一月七日

寝起松神社

古くから神が宿る木とされ、長寿・繁栄・慶事を象徴すると尊ばれてきた松。正月には門松にもさかれています。松への特別な思いは、万葉の昔から抱いていたようです。

八千種の花は移ろふ常磐なる

松のさ枝をわれは結ばな 万葉集卷二〇

(いろいろな美しい花は色があせていく。緑が永遠に変わらない松の小枝を私は結ぼう)

伊勢には市の天然記念物に指定された、大湊の日保見山八幡宮「弥栄の松」のほか、内宮前の宇治には江戸時代初期の内宮長官、藤波氏富が植えたという藤波松、俳祖といわれた荒木田守武が愛玩したという守武松など名物松がありました。

そして、神社になっている松があると聞いて、訪ねたのが伊勢市神久一丁目の「寝起松神社」です。県道一〇二号(二見街道)のJRの高架下から、細い道に入ると、集落の中に青々とした松が見えました。寝起松は、江戸時代の寛文年間(一六六一〜七三)に神宮の摂社を再興したといわれる神宮大宮司の精長朝臣の邸宅があった場所と伝わります。『神都名勝誌』には、うねうねと屈曲した老樹の様は地を這う龍のようと記されていますが、昭和九年に烈風によって倒壊し、現在はまっすぐな木が立っています。おそらく根上がり松から、寝起きにつながり、子どもの寝起きに靈験あらたかと信仰されるようになったことが考えられます。今もさちんと清掃が行き届き、鳥居には「氏子一同奉納」と刻まれています。松は代替わりしても、地元の人々からの信仰は今も変わらないようです。地区の公民館は、寝起松公民館といます。松は地元の誇りでもありました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 横丁きもの日和

空気が清々しく澄み渡る秋空に、普段着る機会が少なくなった着物に袖を通して、晴れやかに「きもの日和」を楽しんでいただけます。着物の魅力と一緒に伊勢の歴史や文化にじっくりと触れてください。

と き／11月11日(土)～12日(日) 9:30～17:00

ところ／おかげ横丁一帯

● 着物レンタル

松阪木綿、伊勢木綿を中心に100着以上の中から好きな着物と帯を選べます。着付けに必要なものはすべて用意しておりますので、当日お客様がお持ちいただくものはございません。お気に入りの着物を選んで、素敵な姿で町をそぞろ歩きしましょう。

と き／9:30～16:30(受付は15:00まで) ※予約可

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

料 金／4000円～(レンタル代、着付け代、クリーニング代込み)

※ご自分の着物一式をご持参いただいた方は1,000円で着付けいたします。

※ヘアセットは1,000円で承ります。(着物レンタル事前予約の方は無料)

● 和装小物作り体験

松阪もめんの機織り体験やつまみ細工の飾り作りなど、着物にピッタリの体験をしていただけます。

と き／10:00～17:00(受付は16:30まで)

ところ／おかげ横丁内「特設屋台」

五十鈴塾

○ 中世ふしぎ絵巻の世界

魑魅魍魎が暗躍した中世の日本、そこには様々な妖怪変化が出没したようです。

夜はあくまでも暗く、森や荒野、庭や屋敷の隅には物の怪の気配が色濃く漂う中で、人々はどうすごしたのでしょうか。

当時の人々の日記から読み取れる怪異な出来事を西山先生にお話ししていただきます。

先生は東海道、山陰新幹線のグリーン席に搭載されている「ひととき」という雑誌に「中世不思議ばなし」を連載され、今回その中から27編が素敵な大人の絵本になりました。

日本画家北村さゆりさんの美しい絵を見せていただきながら、しばし怪しの世界にひたりましょう。

と き／11月10日(金) 13:30～15:00

講 師／西山 克(関西学院大学文学部教授)

ところ／五十鈴塾右王舎

参加料／一般1,600円 会員1,100円

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

こうよう
紅葉

伊勢路の景色は、未だ秋の名残りを留めています。

紅葉の盛りを表す二色のきんとん。行く晩秋を惜しんで染めた彩りです。

くり
栗かのこ

夕焼けが終わり、やがて伊勢路の空に浮かぶのは、明るく冴えた月の姿。

鹿の子模様の餡玉に栗をのせて、月が映える澄んだ秋の夜空に似せました。

もち
うずら餅

草深い野の情景を連想させる鶉は、万葉の時代から詩に詠まれてきました。

栗と粒餡を求肥で包み、可愛い鶉の姿をお菓子のかたちに写し取りました。